2014年9月26日 第2回 SPARC Japan セミナー2014 「大学におけるOAポリシー: 日本版OAポリシーのモデル構築に向けて」

JAIST学術研究成果リポジトリにおける 論文公開の取り組み

北陸先端科学技術大学院大学 研究推進課 図書館情報係 寺田 美樹

JAIST学術研究成果リポジトリ

https://dspace.jaist.ac.jp/

●リポジトリ公開:2007年5月30日



JAIST学術研究成果リポジトリ運用指針

(目的)

リポジトリは、北陸先端科学技術大学院大学において 作成された電子的な学術研究成果を収集し、恒久的に 蓄積及び保存並びに学内外に無償で発信及び提供す ることにより、本学の学術研究の発展に資するとともに、 社会に対する貢献を果たすことを目的とする。 ●資料タイプ別コンテンツ公開数 (2014年3月31日現在)

資料タイプ	件数
学術雑誌論文	1,615
学位論文	1,447
会議発表論文	4,140
会議発表用資料	406
図書	32
テクニカルレポート	117
研究報告書	237
紀要	7
その他	228
合計	8,229

学術雑誌論文(1,615件)の統計情報

2014年3月31日現在

【言語】 英語:1,173(73%), 日本語:442(27%)

【原稿の種類】 出版社版:1,003(62%), 著者版:612(38%)

【論文発行元】 登録論文数が多い順から10社

情報処理学会, Elsevier, Springer, 電子情報通信学会, American Institute of Physics, Institute of Electrical and Electronics Engineers (IEEE), American Physical Society, 応用物理学会, Royal Society of Chemistry, 日本音響学会

これまでの取組み①

2006年度	◆ リポジトリシステム構築(Dspace1.3.2)
	◆ 論文登録希望調査・論文収集(紙・メールで)
2007年度	◆ リポジトリー般公開(2007年5月30日)
自主的な論文提供	◆ 教員からの登録依頼受付開始(メールで)
2008年度	◆リポジトリ充実計画:学術雑誌論文収集強化
収集方針・ 方法の変更	論文収集方針 業績DBに登録されている論文は、教員からの申し出がない限り、 リポジトリ登録を認めるものとし、論文のリポジトリ登録を行う。 <2008年6月16日教育研究評議会で承認>

2008年度:学術雜誌論文収集強化

教員: 論文情報を業績DBに登録。 -- リポジトリへの登録も許可。



出版社の利用許諾条件によって以下のとおり作業。

出版社群	出版社版 の登録	図書館で 入手(OJ)	作業
出版社A群 AIP, APSなど	0	0	図書館で出版社版を入手し登録。 登録したくない論文のみ、教員がNGを図書館に連絡。
出版社B群 信号処理学会, 日本認知科学会など	0	×	教員が図書館に <mark>出版社版</mark> を提出し登録。
出版社C群 Elsevier, Springerなど	×	×	教員が図書館に著者原稿を提出し登録。 (リポジトリへの登録を希望する場合,著者原稿を 提出。)

2007年度末 246件 → 2008年度末 906件

2008年度: 学術雜誌論文収集強化

コンテンツ充実以外にも

- 収集方針・方法、スケジュールを確立
- 出版社への問い合わせ実績を蓄積
- 論文を登録した教員数の増加

2007年度末: 39人(全教員数に対する割合 約25%)

 \downarrow

2008年度末: 113人(全教員数に対する割合 約68%)

<教員へのアプローチ> リポジトリの必要性, 論文登録のメリットを強調

これまでの取組み②

2009年度

- ◆ 学術雑誌論文収集 登録(2008年度と同じ方法)
- ◆ 学内刊行物(JAISTリサーチレポート・ テクニカルメモランダム)の電子化・登録
- ◆科研費報告書収集・登録開始

2010年度

~ 現在

作業の効率化

- ◆ 業績DBシステムとの連携(2010年4月~) 業績入力画面にリポジトリに関する項目を追加 本文アップロード機能追加
- ◆ 業績一覧からリポジトリへのリンク追加
- ◆ 教員別リポジトリ公開論文一覧

論文を 効果的に発信

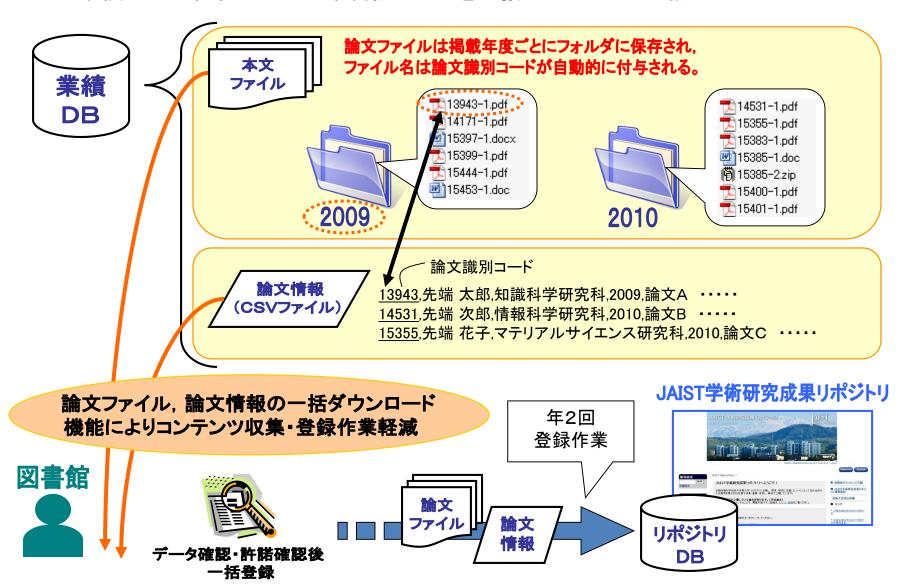
業績DBシステムとの連携

● 業績DBシステムにリポジトリ登録確認画面の追加

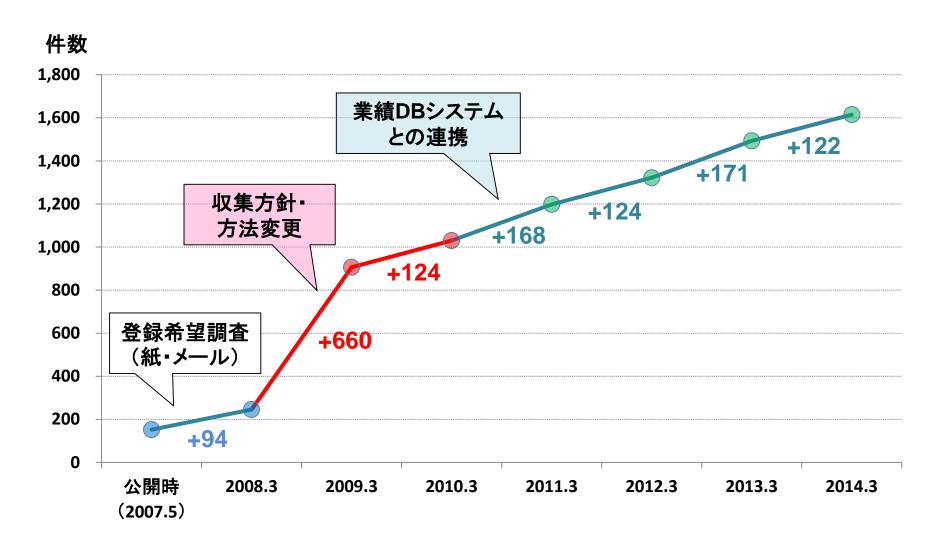


業績DBシステムとの連携

● 業績DBから、本文ファイル、書誌データを一括ダウンロード可能



コンテンツ増加状況 (学術雑誌論文)



まとめ

【収集方針】

- 過去の論文を収集するのに効果的だった。
- 方針があることで、教員へのコンタクトがとりやすい。

ただし、方針があっても公開までの業務は変わらない。

(著者原稿入手, 出版社許諾確認, メタデータ作成など)

【業績DBシステムとの連携】

- 教員: 論文提出が容易に。 → 論文提出を促進
- 図書館: 論文収集作業の効率化。→ 継続的な運用

これからも本学の研究成果を積極的に発信!